

ヤングミセス通信

発行者：愛知県海部農林水産事務所
 農業改良普及課
 〒496-8532 津島市西柳原町
 1-14

そろそろ、暑くなってきました。今回のテーマは熱中症です。

1 熱中症による救急搬送状況について

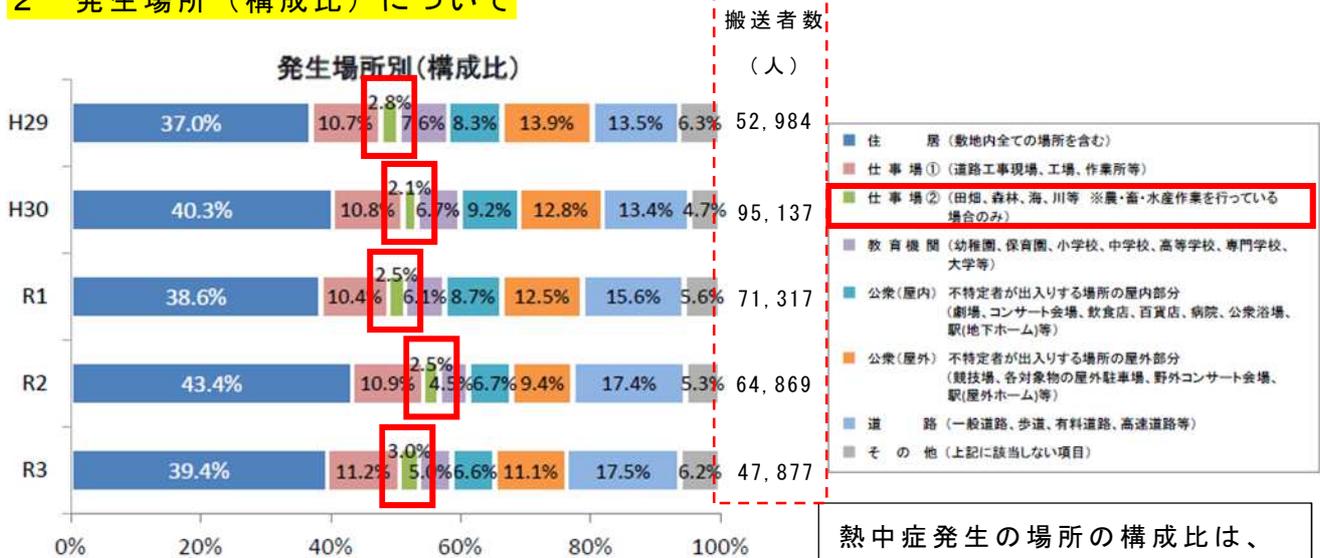
資料1

熱中症による救急搬送状況(令和3年)
 「調査開始から各週の比較」

5月 1,626人
 6月 4,945人
 7月 21,372人
 8月 17,579人
 9月 2,355人



2 発生場所（構成比）について



熱中症発生の場所の構成比は、「田畑、森林、海、河川等を仕事場の場合」は2～3% (H29～R3)。

農業の基幹的農業従事者は136.3万人（農業センサス2020）、林業就業者10万人（国勢調査（総務省））、水産業従事者13.6万人（漁業構造動態調査（農林水産省））で「田畑、森林、海、川等で仕事を行っている」人口は159.9万人です。

これは全人口1億2571万人（2020年12月1日現在の概算値（総務省））の約**1.3%**でした。

平成29年から令和3年の総搬送者数（332,184人）の2.5%（8,323人）が「田畑、森林、海、川等で仕事を行っている」人で、総人口に占める農業者の割合（1.3%）の約2倍と多くなっていました。

3 夏の農作業で熱中症を予防するポイントについて

農作業中の熱中症発生データを見ると、7～8月が多く、70～80代の方の屋外作業中に集中しています。農業従事者の中には、知らず知らずのうちに熱中症にかかっているケースも多く、特に高齢の方は暑さやのどの渇きを感じにくいいため、注意が必要です。安全確認のためにマメに連絡を取り合うなどして、しっかり対策をしましょう。

夏の農作業でのポイント

- 計画的に作業しましょう！
日中の気温が高い時間帯の屋外作業は極力避けましょう。どうしても必要な場合は帽子をかぶり、作業時間を短くしましょう。
- 水分・塩分補給の時間をとりましょう！
のどが渇いていなくても、20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給をしましょう。
- なるべく2人以上で作業しましょう！
なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり異常がないか確認し合うようにしましょう。
- ビニールハウスや畜舎も注意！
炎天下ではない施設内も、高温多湿ならリスク大。風通しをよくするなどの対策をしましょう。

万が一に備えて…携帯電話を持って行こう！
緊急連絡先も登録しておこう！



出典：心がけ次第で防げる！熱中症対策ブック
（熱中症予防声かけプロジェクト×環境省）